

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年4月26日

事業所名 ウィズ・ユー大宮

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		スペースも十分であるし、状況に応じて部屋も分けて対応。	今後も施設の機能に合わせてプログラムや利用時間を調整していく。
	2 職員の配置数は適切である	○		必要に応じて派遣会社による人員の補充。	人員基準は満たしているが、急な欠員等に対応できるように派遣会社等の活用を今後も検討する。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			テナント2階にフロアがあるため、階段は職員が必ず引率するようにしている。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			全職員対象に毎月1回と常勤職員対象に毎週1回の会議を行っている。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			アンケートの機会は少ないが、日々、ニーズを把握するよう保護者様に声をかけている。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			昨年9月開所なので、今回から自己評価を公開する。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		できていないので、今後検討していく。
適切な支援の提供	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		県の研修、FC本部の研修、施設内での研修の実施	定期的に研修を行っているので、さらに内容を充実させていく。必要な書籍等、購入する場合は事業所負担としている。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			アセスメントシートにて個別のニーズの把握をし、会議を行い計画を作成する。さらに情報共有できるように努めていく。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		保護者様のニーズに合わせてアセスメントシートの内容を改善している。	アセスメントシートの内容をシステム(HUG)に入力し、職員間で共有できるように準備している。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			常勤職員が中心となって担当しているが、アイデアについては非常勤職員からもたくさん出されている。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		広いフロアなので体を動かすプログラムの種類を多数用意している。	積極的にアイデアが出ているので、今後も子供たちの可能性を引き出せるプログラムを考案していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		長期休暇は日常のプログラムに加えてイベント等実施。	長期休暇時等は、イベント等実施し、その活動の中で支援を行っている。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個別、集団プログラムを組み合わせている。	広いフロアで基本的には集団療育に取り組んでいるが、児童の特性や発達の段階に合わせて個別の活動、支援も行っている。今後もバランスをとっていくようにする。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		非常勤職員の出勤に合わせ、朝礼を実施。	打ち合わせの内容をさらに充実させるために、朝礼前の事前準備もしっかり行いたい。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			退社時間にばらつきもあるため、全員そろっての振り返りはできていないが、気付いたことは管理者等に報告して情報を共有している。
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		HUGシステムで記録を管理し職員間で共有している。	HUGを活用することにより、記録の把握がしやすくなった。データを蓄積して、支援の改善につなげたい。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			施設からのモニタリング、保護者様からのニーズを把握し、定期的に見直しを行っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			ガイドラインの読み合わせは職員会議に組み込んでいる。それに基づきプログラムを考え支援につなげている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		代表、管理者、児発管が参加。	特定の担当者が参加しているが、今後は他の職員にも参加の機会を設けていきたい。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			学校によって情報交換に差がある。こちらから積極的に連携を取れるように働きかけたい。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○			現在は医療的ケアが必要な児童の受け入れは行っていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○			情報交換をする機会が少なかったため、今後は必要に応じて行っていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○			まだ卒業した児童がいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				状況に応じて連携をとっている。定期開催の研修には参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○			できていないので、今後検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○				定期開催の協議会に参加している。今後は施設からの意見も発信していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			事業所LINE等で気軽にやり取りできるようにしている。	事業所LINEや電話、また送迎時等に情報交換を行うようにしている。年に2回ほど面談を行っている。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○				面談等で必要な助言は行っている。今後は保護者様を対象に研修等も行いたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				利用契約時に説明を行っている。その後、必要に応じて対応している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				相談を受けた場合の対応はもちろん、施設からも様子を見て助言等行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			コロナ禍ということもあり、できていない。状況が落ち着いたら機会を設けたい。児童が来所されることもあり、日曜開催になると職員の勤務体制も課題。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				苦情の対応についての体制を整えている。どの職員も初期対応ができるように教育し、迅速に対応できるようにしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				会報の発行を昨年度末から始めた。今後も継続していく。
	35	個人情報に十分注意している	○				情報は紙ベースの管理からデータで管理するようにシフトしている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				保護者様との意思の疎通は積極的に行っている。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○			できていないので、前向きに検討したい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	自社のマニュアルを作成している。	保護者様への周知が弱いので、再度、整備して配布できるように準備している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		行事予定や職員会議の年間スケジュールとして調整しており、必要な訓練を行う機会を設けている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		上記と同じく、年間スケジュールに組み込んでいる。また、責任者も配置している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		施設に責任者も設置し研修を行っている。必要な児童には支援計画に組み込むようにしている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		現在は食物アレルギーに配慮する児童を預かっていないが、今後、必要に応じて医師の指示を仰ぐ。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例は多数出ているが共有が弱いので、今後、会議の機会を利用して周知してもらう。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公)

公表:令和4年4月26日

事業所名 ウィズ・ユー大宝

保護者等数(児童数)

回収数 22

割合 59%

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18			4	どのお部屋を使って活動しているかわからない。	見学、説明をさせていただきます。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	16			6	あまり意識して見ていなかったし、見る機会が少ないのでわかりません。	分かるように会報等に案内を出したいと思います。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	8	7		7	あまり意識して見ていなかったし、見る機会が少ないのでわかりません。	安全には配慮した設備になっているので、必要に応じて説明させていただきます。
適切な支援の提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	20	1		1		
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	21			1		
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	3	1	16		
保護者への説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	19	1		2		
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	19	2		1		
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	19	1		2		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	7	4	9		
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	16	1		5		
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	19	2		1		
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	19	1		2		
	14	個人情報に十分注意しているか	17	3		2		
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	11	2		3		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	8	5		9		
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	20	1		1		
	18	事業所の支援に満足しているか	19	2		1		

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。